



〒 915-0823
 福井県武生市本町 10-2
大寶寺
 TEL/FAX (0778) 22-1682

お十夜の御案内

みよりの秋、といつてもこのころはお盆が過ぎると稲が色づき始めます。私が南小や二中に通っていたころははお米の収穫は十月下旬から十一月月上旬で、竹を格子状に組んだ稲架場（はさば）にお百姓さんが稲を懸けるのを見ながら通学をしていたことを覚えていてます。田畑も野山も、また民家の木々も一面が赤や黄色、茶褐色の秋の色にいろどられ、落ち葉を掃き集めたたき火でサツマイモを焼いたり、隣家の柿や栗をしっけいしたりしたことが懐かしく思い出されます。

戦前はこの時期になると各地区から納めていただいた米俵やお野菜が本堂と庫裏の間の渡り廊下（現在の敷台の辺り）に山のよう積みまれました。



交通機関の発達する以前はお寺に泊まり込み、恵比須講で賑わう武生市内の商店街で冬支度のための買い物をするのが習わしで、本堂では夜通しのおとめがあり、外陣は老若男女の善男善女で足の踏み場もないほどだったそうです。



十一月十四、十五日は当山でも十夜法要がいとなまれます。お誘いあわせてお参りください。

大寶寺 十夜法要日程

十一月 十四日(日)
 午後二時 開白法要
 " 三時 説教
 " 夜七時 初夜法要
 " 八時 説教
 " 十時 あずきがゆ接待
 十一月十五日(月)
 午前十時 日中法要
 " 十一時 説教
 昼食 終了

布教師 京都市伏見
 阿弥陀寺
 岩井信雅上人

五重相伝についてのQ&A

平成17年10月6日(木)から10日(月)の5日間にかけて、大寶寺において京都嵯峨の直指庵の小田芳隆上人の勸誡のもと五重相伝会がいとなまれます。

Q, 五重とは?

A, 正しくは五重相伝(ごじゅうそうでん)といい、浄土宗独特の大切な法要です。法然上人がお示し下さったお念仏の教えを相続し、儀式を通じて、念仏信仰を確立していただく大変意義深い法要です。

Q, 五重を受けると戒名いただけるのですか?

A, 戒名というのは亡くなった人につけると思われがちですが、浄土宗の正しい教えを引き継いだ証として、警号のついた戒名が授与されます。

Q, 贈(おくり)五重とは?

A, 生前に五重を受けられていない人にかわって、近親者が追善のために行うのが「贈五重」です。五重相伝を受けたかたと同様に、亡くなった方の戒名に警号が授与されます。

Q, 菩提寺以外のお寺で受けても良いの?

A, 五重相伝は浄土宗の信者であるなら、一度は受けて頂きたいものです。菩提寺の五重につくことが原則ですが、五重相伝は十年に一度のことですから、法縁に出会えないこともあり得ますので、他寺で五重につかれてもかまいません。

お十夜って何?

十月から十一月にかけて全国の浄土宗寺院でひろく行われる念仏会で、もともとは陰暦の十月五日の夜から十五日の朝まで、十日十夜にわたる法会でした。

この法会は、浄土宗で最も大切な經典の一つ『無量寿経』の巻下に、「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間善行をすることよりも尊い」と説かれていたことにより、「十日十夜にわたり不斷の念仏を称えて別時の念仏を修し、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要であります。」

この法会が初めて営まれたのは、今から五百五十年ほど前の伊勢守平貞経の弟貞国が、京都の天台宗の真如堂で修したのが

その始まりとされています。その後、明応四年(一四九五)に、現在浄土宗の大本山の一つになっている鎌倉光明寺の第八世観誉祐宗上人が、後土御門天皇に招かれ、宮中で、『阿弥陀経』の講義をされ、さらに真如堂の僧といっしょに引声念仏を修したのが浄土宗でのお十夜の始まりです。

お十夜は、お念仏の尊さを知り、感謝の気持ちを込めてこれをお称えする大切な法会です。今日ではその期間も十日間から短縮されて行われていますが、この大切な念仏会に参加し、仏の国での千年の善行にも勝る善行を、ぜひ積んでいただきたいものです。

<http://www.jodo.or.jp/naruhodo/event/index18.html> より

年内の行事予定

- 十夜法要 十一月十四(日)十五日(月)
- 雪吊、雪囲 十一月二十三(火)
- 各地区から代表をお出しくください。
- 佛名会 十二月十八(土)十九(日)
- 佛名会(ぶつみようえ)というのは、年末を迎えるに当たり、今年一年の間におかしたもろもろの罪を懺悔し、清らかなお身をもって、新しい年を迎えようと願うお詣りです。後日詳細を御案内致します。
- 浄焚会 十二月十九(日)昼。佛名会終了直後にお勤めします。不要

お米を作るのは誰？

「お米はお百姓さんが汗水たらして作ったんだからひとつぶでも粗末にすればバチが当たる」と聞かされて育った人は多いと思います。ところが、昔にくらべたら今は極楽や、とさえ言われるように現代では農作業の機械化が進み、週末だけ、あるいは耕作を他に依頼するという兼業農家が大部分です。もはやお米は特別な作物ではなく、お金で売買する商品のひとつにすぎないと考える人が多いようです。したがって、お米を粗末にすると損をするとは考えても、バチがあたると考える人は少ないように思われます。

ところで、お米は本当にお百姓さんが作るのでしょうか。炭水化物やタンパク質、また、カルシウムやリンなどのミネラル、また、さまざまなビタミン等のお米の成分を取りそろえて、お百姓さんのところへ持参し、これを米に作り変えてくれと頼んだらどうでしょう。そんなことはできるはずがありません。宇宙旅行や一発で何万人も殺戮するような爆弾を作ることができるほど発達した現代の科学力をもってしても、実際には人間は米粒ひとつつくれぬのです。模造の米粒ならばできるかもしれませんが、

になった仏具などをお寺までご持参下さい。

トピックス

○法然上人御影ご分身巡錫
七月四日、知恩院御会堂に安置されている法然上人の御分身を県下各地から一同に会した浄土宗の檀信徒が大野の善導寺にてお迎えし法要が営なまれました。



○新盆参り 七月十三日
雨の中を色とりどりの灯籠を準備して武生地区の檀信



徒の皆様が先祖のご供養にお出かけくださいました。十四、十五日は武生および鯖江の棚経に廻りました。

○総墓参り、盆棚経 八月十日、大勢の檀家さんをお迎えして墓参りのお勤めがありました。十二日から十六日にかけて各村の棚経に廻りました。写真は総墓にお供えされた花と水塔婆です。



○善導大師像撮影 八月中旬、福井市郷土博物館において来年三月から五月にかけて開催される

そのようなお米は田んぼにまいても芽はできません。本物のお米は生き物です。遺伝子を操作して一部を変更したり、クローン技術でコピーを作ることではできません。お米そのものをつくるという技術を人間は持ち合わせていません。したがって、「お百姓さんがお米をつくる」という言い方は厳密に言えば正しくありません。

では、お米は誰が作るのでしょうか。多くの人はお米は誰かが作ったものではなく自然にそこにあるもの、あつてあたりまえのものだ考えているようです。そのように考える人は、当然お米を特別なものとは思いません。

日本のご先祖さまはお米を仏様、あるいは神様からの頂き物としてとらえていました。お米を田畑にまくと芽が出て、茎をのびし根をはり、やがては稲穂を実らせます。そのようにお米が育つ働きもまた、仏様のおかげであることとらえていました。したがってお米を粗末にすることは仏様そのものを粗末にすることになりますから、バチが当たっても当然だと考えることになりません。

あるおじいちゃんがお米の大切さを教えたようにと孫に「ひとつぶのお米には三体の仏様が宿っているから感謝していただきなさい」



「極楽、北陸の浄土教美術展」に出品される大宝寺所有の絹本着色善導大師像のカタログ用写真撮影がありました。写真は軸を調べる学芸員です。



○滋賀教区総代会参拝 八月二十六日、滋賀教区の各寺の総代さんたち約四十名が大宝寺を訪れました。運転手さんの巧みなハンドルさばきで、一行の乗った大型バスが大宝寺の境内に入ったのにはちよつと驚きました。



インド釈尊五大仏跡巡拝とタージ・マハールの旅

2005年2月4日(金)～2月12日(土) 9日間



旅行代金 260,000円

企画 浄土宗福井教区教務所
主催 トラベルサライ
募集定員 40名
申込み締め切り 12月10日(金)まで
詳しくは大宝寺までお問い合わせください。

